

北周の地方統治に関する一考察

—「延寿公碑」を中心として—

アジア史専修 会田 大輔

[要約]

北魏の東西分裂後、東魏に対して軍事的劣勢にあった西魏では、地方有力勢力の取り込みが重要課題であり、積極的に地方有力勢力の保有する力（郷兵）が活用された。この西魏の郷兵については、府兵制との関係から注目を集め、多くの議論が存在している。谷川道雄氏は、河東（山西省南西部）の事例を取り上げ、「朝廷—郡姓（望族）—豪右（地方土豪層）—郷兵」という重層構造が存在するとした。しかし、西魏の後を受けた北周の地方有力勢力対策については、これまで十分検討されてこなかった。一体、北周ではどのような地方有力勢力対策が行われたのだろうか。

ここで注目すべき石刻史料が、保定元年(561)3月に河東の勳州に建立された「延寿公碑」である。この「延寿公碑」の碑陰・碑側には、総管府属僚・地方僧官・地方有力勢力の姓名が342名も列挙されている。この題記を分析し、「延寿公碑」の建立背景をさぐることで、北周前半期における地方有力勢力対策の一端がうかがえると思われる。そこで本稿では、「延寿公碑」碑陽の内容を紹介した後、碑陰・碑側の題記を分析し、北周前半期における河東の有力勢力と北周朝廷との関係を明らかにしたい。

「延寿公碑」が建立された理由は、勳州領の一部喪失や北周朝廷内における権力闘争の影響を受けて、人心をまとめなおす必要が生じ、対北齊最前線である勳州において、仏教勢力・総管府属僚・河東有力勢力（特に豪右）が仏教を通じて北周朝廷を顕彰し、改めて団結を示すためであったと思われる。このことは、北周前半期の河東では、朝廷・総管府と地方有力勢力の間に、仏教を媒介とした紐帯が存在していたことを示している。

さらに、「延寿公碑」中の地方官の出身勢力を特定した結果、勳州刺史や勳州総管府の中枢（上級属僚や大都督など）は、主に中央より派遣されており、河東の「豪右」は総管府の下級属僚や一部の都督などに登用されるのみであった。一方、郡太守や州郡県属僚の殆どが河東の「豪右」であった。また、郡姓の存在感は薄く、「郡姓—豪右—郷兵」の重層構造は窺えなかった。多くの河東出身「豪右」が他地域の長官に就任しており、朝廷が「豪右」を直接支配していた様子が窺えた。ただし、勳州下の郡県支配に「豪右」を利用しており、地方末端までは直接支配できていなかったものと思われる。西魏北周を経て、徐々に朝廷による地方の直接統治が行われるようになった結果、隋代になって郡県制の施行や属僚の整理と中央任命化、本貫地回避の徹底などの地方行政制度改革が可能になったのである。

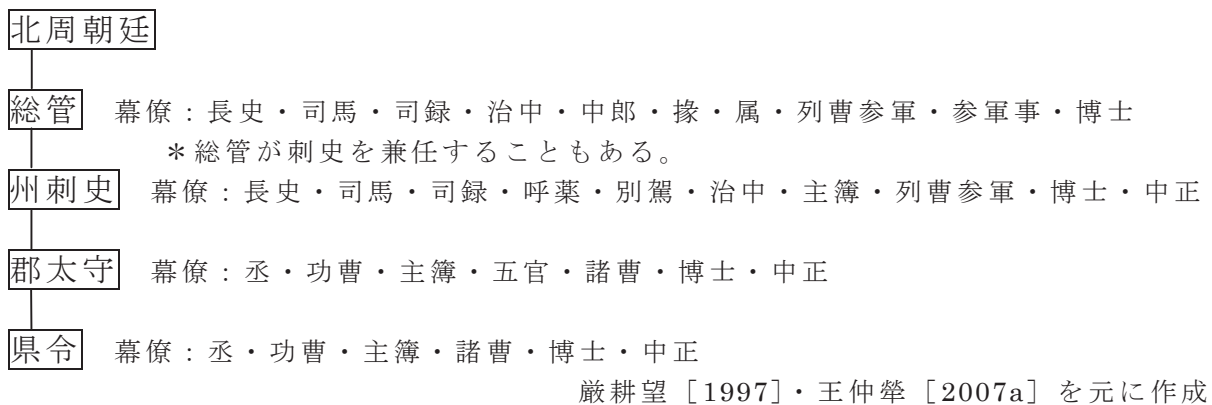
キーワード：北周、地方勢力（郡姓・豪右）、地方行政（総管府・州郡）

[資料]

1. はじめに

- ・北魏の東西分裂後、東魏に対して劣勢だった西魏では、地方有力勢力の取り込みが重要課題。大統9年（543）、「廣募豪右」・「統領郷兵」政策実施。本籍地任用も行う。積極的に地方有力勢力の保有する力を活用。郷兵の吸収によって軍事的に東魏に対抗することが可能となった。府兵制との関係から多くの議論が存在（菊池英夫 [1957]・谷川道雄 [1998a]・氣賀澤保規 [1999]・平田陽一郎 [2000] など）。
- ・谷川道雄 [1993] [1998b] [1998c] は、河東（山西省南西部）の事例に言及し、「郡姓（望族）—豪右（地方土豪層）—郷兵」の重層構造を指摘。「豪右」の影響力の範囲を郡未満とする。
- ・河東は対東魏北齊の最前線で係争地。西魏時代に河東の有力勢力を取り込み、東魏北齊に対抗。毛漢光 [2002]・宋傑 [2006] 参照。
- ・従来は西魏の事例を取り上げるのみ。北周の地方勢力対策については十分検討されてこなかった。北周前半期（557～572）は皇帝の従兄の宇文護が実権を握った（宇文護執政期）。宇文護は地方仏教勢力と結びつき、統治の安定を図った（拙稿 [2007a]）。また、武成元年（559）に総管制を施行。総管は州刺史に対し軍事・行政の監督権を持った（嚴耕望 [1997]・張鶴泉 [2008]）。

【北周地方行政系統図】 *本貫回避は行われていない。 窪添慶文 [2003] 参照。



- ・では、この時期の地方勢力対策はどのようなものだったのか。保定元年（561）に河東に建立された「延寿公碑」には、総管府属僚・地方僧官・地方勢力が342名も列挙。その題記を分析し、建立背景を探ることで宇文護執政期の地方勢力対策の一端が窺える。

2. 「延寿公碑」の内容

(1) 「延寿公碑」概要

- ・保定元年（561）、勲州（現在の山西省稷山県）に建立。北宋代から知られていた（趙明誠撰『金石録』など）。稷山県玉壁城遺址に存在していた。現在、稷山県博物館に収蔵。

- ・ 外形：『中国文物地図集（山西分冊）』下巻 1115 頁は、高 266cm× 幅 99cm× 厚 36cm とし、四面に造像があり、主龕は一仏二菩薩二弟子とするが、正確な外形は不明。淑徳大学書学文化センター所蔵拓本は、碑陽 167cm× 68cm、碑陰 176cm× 76cm、碑側 186cm× 35cm。
- ・ 文字：碑額は「周／大／將／軍／延／壽／公／碑／頌」。碑陽は 18 行 × 1 行 33 字の合計 536 字。碑陰・碑側に碑の建立に関与した人名が計 342 名列挙。
- ・ 拓本・録文は、顔娟英主編 [2008] 176 ～ 177 頁に碑陽のみ掲載。碑陰・碑側の拓本写真は、藤原楚水 [1939] 第 2 巻 224 ～ 225 頁（碑陽・陰・側）に掲載。他にも著録はあるが、碑陰・碑側の録文はない。報告者は 2008 年 1 月 31 日に淑徳大学書学文化センターで「延寿公碑」（碑陽・陰・側）の拓本を閲覧し、録文を作成。

（2）延寿公于寔について

- ・ 「延寿公碑」3 行目末～ 5 行目「使持節・大將軍・大都督・勳州・汾州・絳州・晋州・建州・玉壁城・車箱城・龍頭城・栢辟城・樂昌城・姚襄城諸軍事・勳州刺史・延壽郡開國公」：万紐于寔の官名・封爵。地名はいずれも勳州周辺。
- ・ 于寔は元勳の于謹の嫡子。万紐于是于氏の原姓。『周書』巻 15・于謹伝に附伝。于謹は北周建国時に宇文護の権力掌握に協力。于寔は西魏初より従軍し、大統 15 年（549）に開府儀同三司・渭州刺史に就任。北周建国後、延寿郡公に封じられ、民部中大夫を経て、大將軍・勳州刺史となった。その後、小司寇・延州刺史などを歴任。天和 5 年（570）の于謹没後、燕国公を継いで柱国となった。彼の子顗は宇文護の娘婿。

（3）勳州について ＊王仲犛 [2007b] 下 782 ～ 785 頁を参照した。

- ・ 勳州：東魏北齊との国境に位置。治所は玉壁、領郡は 4（高涼・龍門・正平・絳）。現在の山西省稷山県。西魏時代は南汾州が置かれ、廢帝 3 年（553）に勳州に改名。
 - 高涼郡：領県は 1（高涼）、県内に玉壁城が存在。
 - 龍門郡：領県は 2？（龍門・汾陽？）。
 - 正平郡：領県は 3（臨汾・聞喜・曲沃）、治所は龍頭城。僑州の絳州が置かれた。
 - 聞喜県に栢（柏）辟城、曲沃県に樂昌城が存在。
 - 絳郡：領県は 2（絳・小郷）、治所は車箱城。僑州の晋州・建州が置かれた。
- ・ ＊汾州：現在の山西省吉県。領郡は 1（定陽郡）、姚襄城が存在。
- ・ 538 年・541 年・546 年に激戦。また、556 年・558 年・559 年の戦闘で、勳州下の絳郡北東の澮水一帯を失った。一連の戦いの影響で、勳州に僑州（絳州・建州・晋州）設置。
- ・ 武成元年（559）正月、都督諸州諸軍事にかわって総管が置かれた。勳州にも勳州（玉壁）総管設置。勳州総管就任者は、長孫澄（559 ～ 560？）・韋孝寛（563 以前～ 577）。河東出身者はいない。北齊平定後、勳州総管は廃止。勳州を絳州と改める。
 - ＊「姫威墓誌」（伊藤誠浩 [2007]）：姫威の父肇は勳州総管。贈官の可能性もある。
- ・ 勳州刺史：元亨（孝閔帝期）・郭賢（明帝期）・宇文恪（明帝期）・于寔（保定初）・韋孝寛（保定年間）・長孫兕（天和初）・長孫嶸（天和六年頃）。河東出身者はいない。
- ・ 于寔は「勳汾絳晋建等諸軍事・勳州刺史」。武成元年に諸州諸軍事は総管に改められた。「姫威墓誌」中の姫肇の「勳晋絳建四州諸軍事・勳州總管」と于寔の統治範囲が一致。

碑陰第2層35行目に「撚綰（＝総管）學助教楊寶」が登場。于寔は勳州総管であった可能性が高い。在任時期は長孫澄と韋孝寛の間の明帝期（560？）～保定初（563以前）。

（4）「延寿公碑」碑陽の内容

- ・ 1～3行目：仏教の誕生と現在の状況を簡潔に記す。
- ・ 3～8行目：于寔の性格は前漢の文翁・後漢の楊震にまさり、辺境対策・異民族（北狄＝稽胡。滝川正博 [2009]）安撫の功績は西周の邵公奭・漢の周勃を越えるとする。
- ・ 8～10行目：于寔が仏教に心を寄せ、仏塔を建立したことを称賛。
- ・ 10～13行目：皇帝（武帝）を称賛し、北周の実権を握っていた宇文護を伊尹・周公旦に比して称えた後、功績を伝えるため石碑を建立すると述べる。
- ・ 14～18行目：頌で俗権・皇帝権力と仏教とを交互に繰り返して称賛。
 - 1) 14～15行目：仏教と皇帝（武帝）を併置。「有佛有法」⇔「爲皇爲君」、「聖徳廣運」⇔「大智普聞」、「牢籠軒項」⇔「影響彌文」など。
 - 2) 15～18行目：仏教徒と臣下としての功績・立場を併置（宇文護と于寔？）。「有法大士」⇔「爲王爪臣」、「言登一子」⇔「功參十人」、「忠爲令徳」⇔「善作福因」、「弘茲佛日」⇔「會此堯辰」、「奉資聖帝」⇔「成我能仁」など。
- ・ 「延寿公碑」は表題に「周大將軍延壽公碑頌」とあるように于寔の顕彰碑。前半部では于寔の功績と造塔事業を称賛。しかし、後半部では武帝・宇文護を称賛し、その功績を伝えるため頌を刻むと述べ、頌部分で仏教と武帝・宇文護を対句の形で褒めたたえている。武帝・宇文護を奉為対象とする造像記は多い（拙稿 [2007a]）。しかし、北周の紀功碑なども含め、類似例は無い。単なる地方長官の顕彰碑という枠組みを超えている。

3. 「延寿公碑」碑陰・碑側の分析

- * 碑陰は12層構造。第1層は地方僧官32名。第2～第12層右半分（1～19行目）は于寔の属僚83名、第2～第11層左半分（20～37行目）は邑子など157名。
- 碑側は8層構造。第1層は地方僧官8名と僧侶4名、第2～第4層は地方僧官2名と僧侶31名。第5～第8層は地方官など25名。碑陰・碑側の合計は342名。なお、碑側第8層4～11行目の題記は、北周末に余白を再利用したもの。分析の対象外。

（1）地方僧官

- ・ 地方僧官の新知見：1州につき3名の州三蔵が登場。河東では州三蔵が複数名置かれていた。ただし、北周の全ての州で複数名置かれたかは不明。また、郡県にも僧官（郡三蔵・県三蔵）が存在（倉本尚徳 [2008]）。
- ・ 于寔・武帝・宇文護を顕彰する「延寿公碑」の碑陰・碑側の最上段に地方僧官が列挙。河東の仏教勢力が積極的に「延寿公碑」の建立に関わったことを示唆。
- ・ 州三蔵は、全て勳州総管下（勳・汾・絳・晉・建州）。そのうち、絳・晉・建州は、勳州に置かれた僑州。郡・県三蔵は、殆どが勳州治下（郡：龍門・正平・高涼、県：高涼・龍門・汾陽・聞喜・曲沃）。義寧郡（晋州）・太平県（晋州平陽郡下）の僧官も見えるが、晋州は勳州に置かれた僑州。「延寿公碑」に関わった仏教勢力は、おおむね勳州の範囲内。

- ・ 勳州では「延寿公碑」以外にも、北周 3 年（559）「宇文恪造浮図龍華銘」（勳州刺史宇文恪）・保定 2 年（562）「檀泉寺造像記」（絳州刺史宇文貞）・天和 6 年（571）「扶扶榮造像記」（勳州刺史長孫嶸）・建徳 2 年（573）「降魔寺碑」（勳州総管韋孝寛）など、総管・刺史が関与した仏教碑刻が残されている。仏教勢力との深い関係が窺える。

（2）河東の有力勢力 ＊郡姓については、池田温 [1960] 参照。

- ・ 裴・柳・薛氏は河東の郡姓。『古今姓氏辯證』巻 38 所引『太和姓族品』には「柳・裴・薛爲河東三姓」とある。柳・裴・薛氏の概略については毛漢光 [2002a] [2002b] 参照。他に敬・張・樊・王・楊氏が河東の「豪右」（谷川道雄 [1993]）。表 1 は唐代の河東郡・平陽郡の郡姓。西魏時代に「豪右」であった張・樊・楊氏は見えない。

表 1：唐代の郡姓

	河東郡	平陽郡
太平寰宇記	裴・柳・薛・費・呂・滿・聶・茹・廉	賈・路・柴・解・馬・鄧
廣韻	裴・柳・薛・王・賈・衛・先・弋	路・敬・莢
敦煌文書 (S5861)	賈	賈

- ・ 碑陰 2 ～ 11 層左半分（20 ～ 37 行目）の邑子（無官）は合計 127 名。表 2 は邑子の諸姓を登場数の多い順にまとめたもの。王・李・張・陳・董・郭・楊・程・梁・趙・郝氏が 3 名以上登場。王・張・楊氏は史書に見える河東の「豪右」。邑子に多数登場する姓は、河東の有力勢力（豪右）とみてよいのではないか。なお、保定 2 年（562）「檀泉寺造像記」中の邑子 47 名のうち、董氏が 22 名で最も多く、王氏 6 名、宇文氏 3 名、李・鄭氏 2 名と続く。このうち、董・王・李氏は「延寿公碑」中にも多数登場する。

表 2：「延寿公碑」中の邑子の姓

10 名以上	19：王 12：李
5 名以上	9：張 7：陳 5：董
3 名以上	4：郭・楊 3：程・梁・趙・郝
2 名	潘・劉・郗・陰・周・丁・蘇・耿・侯
1 名	牛・高・常・朱・師・胡・樊・閔・晁・公孫・許・呂・路・孟・泉・孫・陸・奈・樂・秦・衛・柳・范・南・翟・談・任・韓・杜・薛・吳・姚・折・段・魯・婁・馮

- ・ 碑陰第 2 層 20 ～ 35 行目、第 3 層 20 ～ 31 行目に見える供養主など邑子中のリーダー格にあたる人物の姓を確認。河東の豪右の王・樊氏や張・陳・董・郭・楊・衛氏などが登場。供養主から幡花主までの 24 名のうち、14 名が河東の有力勢力と思しき姓。中でも王氏が 4 名、張氏・楊氏が各 2 名。 供養主：樊・王、齋主：王、副齋主：閔、都化主：牛・王・張、都邑主：張・侯・高・潘、高坐主：董・楊、都邑：常・朱、都維那：衛・李、都典録：師・郭、道場主：王・楊、燈明主：潘・胡、幡花主：陳
- ・ 邑子中には、河東の郡姓として名高い裴氏は登場せず、柳・薛氏も 1 名しかみえない。西魏北周では裴・柳・薛氏に宇文などを賜姓。しかし、これらの胡姓も登場しない。

(3) 総管府属僚

- ・碑陰の第2～第12層右半分(1～19行目): 総管府属僚を列举。一部の都督は碑陰の左半分(20～37行目)や碑側にも登場。
- ・「延寿公碑」中の大都督・帥都督・都督(表3)を見ると、碑陰右半分の2層・4層の大都督・帥都督・都督の殆どが胡姓。2層の大都督張乾は、河東の有力者の可能性もあるが断定はできない。一方、碑陰左半分や碑側に登場する人物や、將軍号などの肩書がない帥都督・都督には漢姓が多く、一部には河東の有力者と思しき人物も見える。

表3:「延寿公碑」中の大都督・帥都督・都督

		層・行	登場姓
大都督(6名)		2-6~15	儀同三司大都督: 谷渾・大利稽・豆盧・張・宇文
		8-19	杜
帥都督(8名)		2-16~18	独孤・爾朱・地連
		10-2	史
		10-4~7	吳・史・橋・賈 *將軍号などの肩書無し
都督(20名)	陰右	2-19	侯伏侯
		4-3~12	代伏云・侯莫陳・紇干・万紐于・賀蘭・庫汗・可那須・俟幾・万紐于
	陰左	6-33	梁
		8-21~23	奈・王
		2-24、9-20、10-20、10-25	関・孫・曹・范 *將軍号などの肩書無し
	側	6-3	許
		7-2、7-9	耿・汝

* 某は郡姓・豪右を意味し、網掛けは邑子に3名以上登場する姓を意味する。

- ・碑陰4層13～19行目から8層3～18行目に総管府属僚が列举(表4・表5)。最も多い姓は万紐于氏(7名)。総管府属(4層18行目)の万紐于詮は于寔の甥(『周書』卷30・于翼伝)。多くは于寔の親族であろう。総管府属僚のうち、上級属僚(長史から属)は全て胡姓。他地域より赴任。しかし、列曹参军(16名)には漢姓が多く、胡姓は万紐于(2名)・賀蘭(1名)のみ。参军も大多数が漢姓で、胡姓(万紐于氏)は2名のみ。

表4:「延寿公碑」中の総管府属僚

長史	治司馬	治司録	中郎	掾	属	兵曹参军	集曹参军	記室曹参军	倉曹参军	戸曹参军	城局曹参军	功曹参军	楽曹参军	外兵曹参军	騎兵曹参军	鎧曹参军	刑獄曹参军	法曹参军	賓曹参军	田曹参军	士曹参军
叱呂	万紐于	万紐于	賀蘭	乙弗	万紐于	孫	龐	侯	趙	李	万紐于	賀蘭	普	王	劉	任	趙	仇	万紐于	傅	蘭

表5:「延寿公碑」中の参军(19名)の姓

2名	万紐于・郭・張
1名	劉・静・蔣・魏・綏・尹・輔・袁・程・祝・閻・解・侯

- ・その他、総管府に關係する官名に、碑陰 2 層 35 行目の総管学助教（楊）があげられる。楊氏は河東の「豪右」。また、碑陰左半分最下層の屯主（15 名）も、総管府に属していた可能性がある。屯主は屯田制と関係？唐代の事例だが、『新唐書』卷 48・百官志には、諸屯監の属官に「屯主」が見える。屯主の姓をまとめると「楊 ×3・王 ×2・衛・遼・李・晁・姚・呂・辛・薛・甯・耿」となり、楊・王・李など河東の有力者と思しき姓が多い。
- ・小結：大都督・帥都督・都督・総管府の上級属僚（長史～属）は胡姓が多い。総管府の中樞は河東出身者ではなく、他地域出身者（主に胡族）で占められていた。しかし、総管府属僚の列曹参军・参军・屯主などには漢姓が多く、河東の有力者と思しき人物も散見される。総管府の下級属僚・一部の都督などには河東出身者が登用されていた。

（4）地方官

- ・勳州総管府内の地方長官（表 6）は、勳州下の郡守・城主に集中。栢壁防主兼高涼郡守の長孫兕（『北史』卷 22・長孫子彦伝）を除き、殆どが河東有力者と思しき姓。樂昌城主の侯氏は、文献史料に「豪右」として見えず、邑子に 2 名しか登場しないが、都邑主に 1 名見えるほか、総管府属僚の記室参军と参军に就任している。彼も河東の有力者か。一方、勳州刺史は于寔で、治所の高涼郡太守は長孫氏。行政の中心は胡族が掌握。

表 6：「延寿公碑」中の勳州総管府内地方長官

州	郡・城	兼官	層・行	姓名
勳州	高涼郡守	栢壁防主（正平郡下）・大都督	陰 2－5	拔拔（長孫）兕
	玉壁城主	臨汾県令（正平郡下）	陰 4－24	李衆保
	龍門郡守	大都督	側 5－5	姚欽芝（前職か）
			陰 6－34	王要洛
	正平郡守	大都督	側 5－8	張勝族
	樂昌城主	大都督	側 5－2	侯方超
建州	高都郡守	帥都督	側 5－10	樊珍

- ・地方官属僚（表 7）は、高涼郡（勳州の治所）の属官が多い。「延寿公碑」が高涼郡の有力勢力を中心に作られた可能性を示す。多くが河東の有力者と思しき姓。郡姓の薛氏が 3 名（州主簿・郡中正）見える。郡主簿・中正を輩出する呉氏・史氏も河東の有力勢力か。但し、勳州主簿は于寔の大將軍府の属僚。

表 7：「延寿公碑」中の勳州総管府内の地方官属僚

	州郡県	兼官・前任官	層・行	姓名
州主簿	勳州主簿	都督・大將軍府参军	側 7－5	姜纂
	晋州主簿	都督	側 8－2	李仲琛
	州主簿	前督護龍門聞喜二県令・郡功曹	側 6－7	薛鸞
	州主簿		側 6－11	薛道長
郡属官	高涼郡主簿		側 6－12	呉暉
	高涼郡功曹	郡中正	陰 3－22	衛玉
	高涼郡丞		陰 8－36	嚴朗
	高涼郡中正	前大丞相府法曹	側 6－5	呉整
	郡中正	前州都	側 6－8	薛興頭
	龍門郡主簿	汾陽県中正	側 7－8	史磨侯
県属僚	高涼県主簿		陰 3－24	李纂

- ・河東以外の地域の地方官（表 8）には、胡姓は 1 名も見えず、殆どが河東の有力勢力と思しき姓。彼らは河東出身者として、「延寿公碑」の建立に協力したのであろう。彼らの赴任地域は、現在の陝西省・甘肅省・河南省・四川省など多岐にわたっている。

表 8:「延寿公碑」中の他地域地方官

	州・郡・県名	現在の地名	陰／側	姓名
州刺史	并州刺史	四川省宣漢県東北	側 6－1	胡大漢
	申州刺史	所在地不明（河南省？）	側 7－6	犂社
郡守	上川郡守（純州）	河南省桐柏県東	陰 3－32	樊曇遠
	安定郡守（涇州）	甘肅省涇川県	陰 4－22	梁僧雷
	雍州□馮翊郡守	陝西省高陵県	陰 4－25	趙天□
	洛州上洛郡守	陝西省商県	陰 5－20	趙玄興
県令	枹罕県令（河州）	甘肅省臨夏県	陰 3－33	張惠龍
	清水県令（秦州）	甘肅省清水県	陰 4－20	李道義
	鄯州廣武県令（涼州の誤？）	甘肅省永登県	陰 6－35	王法欽
	馬榮県令	所在地不明	陰 2－34	董黒
	□州□義県令	所在地不明	陰 4－21	郝思敬
	益州垣陵県令（所在地不明）	益州は四川省成都市	陰 5－36	楊敬達
	前洛陵県令	所在地不明	陰 10－4	吳敬賢
	渠州八□県令（所在地不明）	渠州は四川省渠県	側 6－2	張歸洛
	中平県中正	所在地不明	陰 2－20	樊歩盆

地名表記は碑の表記に従った。（ ）内は碑に記述が無い場合に補った。

（5）小結

- ・「延寿公碑」は勲州・高涼郡の関係者を中心に作成された。
- ・勲州の仏教勢力が積極的に「延寿公碑」の建立に関与。
- ・勲州刺史・高涼郡太守・勲州主簿や総管府の中樞は、他地域出身者（主に胡族）で占められていた。しかし、総管府の下級属僚・一部の都督などには河東出身者を登用。
- ・「延寿公碑」中の郡太守・郡県属僚の殆どが河東の有力勢力。本籍地任用が広く行われていた。鎮や防では地方有力勢力による「統領郷兵」が行われていた（平田陽一郎[2007]）。郡県でも地方有力勢力による「統領郷兵」が行われていた可能性。
- ・しかし、郡姓（裴・柳・薛）の影は薄い。当時、彼らは中央高級官僚や他地域の地方長官として活躍。郷里との関係が薄くなった可能性もある。しかし、裴氏は北周前半期に河東の地方官となっている（『周書』巻 37・裴文举伝）。本貫地以外の郡県に対する郡姓の影響力はあまり大きくなかった？
- ・「郷帥（郡姓）—豪右（中小豪族）—郷兵」の重層構造は窺えない。河東出身者（「豪右」）が他地域の長官に就任していることは、朝廷と「豪右」が直結していることを示唆。ただし、郡太守・県令が多く、高級官僚は少ない。郡姓と「豪右」の間に格差が存在。

4. 「延寿公碑」の建立

（1）北周の政治状況

- ・北周建国（557）後、皇帝の従兄の宇文護が大冢宰・都督中外諸軍事に就任し、実権掌握。557 年 9 月明帝即位。武成元年（559）正月、宇文護、帰政を上表。明帝親政開始。しかし、軍権は宇文護が掌握。都督諸州軍事制を総管制に変更。宇文護の軍事権力強化（中村淳一[1991]）。武成元年（559）8 月、天王号を皇帝号に改称。皇帝権強化の動き。

- ・ 武成2年(560)4月、明帝死去(宇文護による毒殺)。武帝即位。保定元年(561)正月、天官府(長官は大冢宰)がその他の五府(地・春・夏・秋・冬)を統括。大冢宰宇文護が北周の政治・軍事の両権を完全に掌握。
- ・ 宇文護は胡族系元勳・山東貴族・関中漢人郡姓などに配慮して人材登用(拙稿[2007b])。また、仏教を保護・援助し、地方僧官を通じて地方社会に北周の影響力を浸透させようとした(拙稿[2007a])。

(2)「延寿公碑」建立の背景

- ・ 保定元年(561)正月、宇文護が北周の実権を完全に掌握。
 - ・ 勳州は対北齊最前線。北周明帝期(556年・558年・559年)に勳州領の一部を失う。
 - ・ 勳州では「郡姓—豪右—郷兵」の重層構造が窺えない。朝廷と「豪右」が直結。
 - ・ 勳州総管府属僚・河東有力勢力・地方僧官が「延寿公碑」の建立に協力。河東出身者で他地域の地方官であった人物までもが関与する大がかりな顕彰事業。
 - ・ 「延寿公碑」の内容：于寔の地方長官・仏教信徒としての功績を顕彰。頌では俗権力(武帝・宇文護・于寔)と仏教を対句にして繰り返し称賛。
 - ・ 延寿公碑の建立地は、勳州の治所玉壁城付近。対北齊最前線。
- ⇒北周における宇文護の実権掌握、北齊による勳州領の一部喪失をうけて、人心をまとめ直す必要性。対北齊最前線である勳州において、総管府属僚・地方僧官・河東有力勢力(特に豪右)が、仏教を通じて武帝・宇文護・于寔を顕彰し、団結を示す。

おわりに

- ・ 総管府の人的構成：勳州刺史や勳州総管府の中樞(上級属僚や大都督など)は、中央より派遣(主に胡族)。総管府の下級属僚や一部の都督などには、河東の「豪右」を登用。
- ・ 郡太守・州郡県属僚：殆どが河東の「豪右」。本籍地任用・「統領郷兵」政策。
- ・ 郡姓の存在感は薄く、「郡姓—豪右—郷兵」の重層構造は窺えない。多くの河東出身者(「豪右」)が他地域の長官に就任。朝廷が「豪右」を直接支配。他地域への移動は、郷兵集団内部の主帥と郷兵の私親関係の希薄化を反映(平田陽一郎[2002])。ただし、勳州下の郡県支配に「豪右」を利用しており、地方末端までは直接支配できていない。
- ・ 郡姓は中央官僚を輩出。「豪右」は他地域の郡県長官レベル。郡姓と「豪右」間に格差。
- ・ 隋の地方行政改革：郡廃止、州県属僚の整理・中央任命、本貫地回避の徹底など。西魏北周を経て、徐々に朝廷による直接統治が可能になった(窪添慶文[2003])。「延寿公碑」はその途中経過を示す。
- ・ 「延寿公碑」建立の背景：宇文護の実権掌握、勳州領の一部喪失を受け、仏教勢力・総管府属僚・河東有力勢力(特に豪右)が「延寿公碑」の建立を通じ、団結を示す。宇文護執政期の河東では、朝廷・総管府と地方有力勢力の間に、仏教を媒介とした紐帯が存在。
- ・ 武帝親政期の廃仏は、地方有力勢力との紐帯の一部を断ち切ってしまった可能性。

付記:「延寿公碑」の存在については、東京大学大学院生の倉本尚徳氏にご教示いただいた。
また、淑徳大学書学文化センターでの拓本閲覧に関しては、書学文化センター長小川博
章准教授のご協力を得た。録文作成に際しては、東京大学大学院生の倉本尚徳氏・明治
大学大学院生の石野智大氏の助力を得た。記して深謝申し上げたい。

参考文献リスト

【単行本・年代順】

- 01) 藤原楚水 [1939] 『増訂 寰宇貞石図』(興文社)
- 02) 北京図書館金石組編 [1989] 『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本彙編』(中州古籍出版社)
- 03) 巖耕望 [1997] 『中国地方行政制度史・乙部・魏晋南北朝地方行政制度』下冊(中央研究院歴史語言研究所、初出 1963)
- 04) 宋傑 [2006] 『兩魏周齊戦争中の河東』(中国社会科学出版社)
- 05) 国家文物局主編 [2006] 『中国文物地図集(山西分冊)』(中国地図出版社)
- 06) 王仲犛 [2007a] 『北周六典』(中華書局、初版 1979)
- 07) 王仲犛 [2007b] 『北周地理志』(中華書局、初版 1980)
- 08) 韓理洲等輯校 [2008] 『全北齊北周文補遺』(三秦出版社)
- 09) 顏娟英主編 [2008] 『北朝仏教石刻拓片百品』(中央研究院歴史語言研究所)
- 10) 毛遠明校注 [2008] 『漢魏六朝碑刻校注』(線装書局)

【論文・年代順】

- 11) 菊池英夫 [1957] 「北朝軍制に於ける所謂郷兵について」(『重松先生古稀記念九州大学東洋史論叢』九州大学文学部東洋史研究室)
- 12) 池田温 [1960] 「唐代の郡望表(上) 一九・十世紀の敦煌写本を中心として」(『東洋学報』42 - 3)
- 13) 中村淳一 [1991] 「北周明帝期の兵制改革と宇文護について」(『立正大学東洋史論集』4)
- 14) 谷川道雄 [1993] 「東西兩魏時代の河東豪族社会—「敬史君碑」をめぐって」(礪波護編『中国中世の文物』京都大学人文科学研究所)
- 15) 谷川道雄 [1998a] 「北朝後期の郷兵集団」(『増補 隋唐帝国形成史論』筑摩書房、初出 1962)
- 16) 谷川道雄 [1998b] 「府兵制国家論」(『増補 隋唐帝国形成史論』筑摩書房、初出 1993)
- 17) 谷川道雄 [1998c] 「西魏二十四軍の成立と豪族社会」(『増補 隋唐帝国形成史論』筑摩書房、初出 1993)
- 18) 氣賀澤保規 [1999] 「前期府兵制研究序説—その成果と論点をめぐって」(『府兵制の研究』同朋舎)
- 19) 山下将司 [1999] 「西魏・恭帝元年「賜姓」政策の再検討」(『早稲田大学大学院文学研究紀要』45 - 4)
- 20) 平田陽一郎 [2000] 「北朝末期の「部曲」について」(『史滴』22)
- 21) 平田陽一郎 [2002] 「唐代兵制＝府兵制の概念成立をめぐって—唐・李繁『韋侯家傳』の史料性格と位置づけを中心に」(『史観』147)
- 22) 毛漢光 [2002a] 「北朝東西政權之河東爭奪戰」(『中国中古政治史論』上海書店出版社、初出 1987)
- 23) 毛漢光 [2002b] 「晋隋之際河東地区与河東大族」(『中国中古政治史論』上海書店出版社、初出 1989)
- 24) 窪添慶文 [2003] 「魏晋南北朝における地方官の本籍地任用について」(『魏晋南北朝官僚制研究』汲古書院、初出 1974)

- 25) 拙稿 [2007a] 「北周「張僧妙碑」からみた宇文護執政期の仏教政策」(氣賀澤保規編『中国石刻資料とその社会—北朝隋唐期を中心に』汲古書院)
- 26) 拙稿 [2007b] 「北周宇文護執政期再考—宇文護幕僚の人的構成を中心に」(『集刊東洋学』98)
- 27) 伊藤誠浩 [2007] 「隋大業六年「姬威墓誌」に関する一考察」(氣賀澤保規編『中国石刻資料とその社会—北朝隋唐期を中心に』汲古書院)
- 28) 平田陽一郎 [2007] 「西魏・北周時代の「防」について」(記念論集刊行会『福井重雅先生古稀・退職記念論集 古代東アジアの社会と文化』汲古書院)
- 29) 倉本尚徳 [2008] 「北朝時代の多佛名石刻—懺悔・稱名信仰と関連して」(『東洋文化研究所紀要』154)
- 30) 張鶴泉 [2008] 「北周總管的権力及国家征討制度關係問題考略」(吉林大学古籍研究所編『“1～6世紀中国北方边疆・民族・社会国際学術研討会”論文集』科学出版社)
- 31) 滝川正博 [2009] 「北周における「稽胡」の創設」(『史観』160)

北周延寿公碑

【碑額】

周／大／將／軍／延／壽／公／碑／頌

【碑陽】

- 一 夫眞源澄寂、冲趣虚玄、非可言寄、會通筌致。是以釋迦應生王宮、救昏迷於大□、□□
 二 婆羅、示群品之無常、自尔迄今、邈餘千載。純風潛遏、道靈夷淪、用使凝塵翳於黔首、□□
 三 垢穢於凡俗。自非識慧幽明、洞監八解、安能樹善因於火宅、建般若於冥津矣。使持節、
 四 大將軍・大都督・勳州・汾州・絳州・晉州・建州・玉壁城・車箱城・龍頭城・栢辟城・樂昌城・姚襄
 五 城諸軍事・勳州刺史・延壽郡開國公万紐于寔、志性沈簡、器度寬雅。懷仁納惠、文翁未
 六 必比其能、謙恭節儉、四知焉得逸其操。爰安邊荒、事均□□、威震裔夷、則望旗喪氣、恩
 七 被北狄、則纒負雲歸。民飲惠化、咸詠甘棠之風、人懷其德、咸歌來蘇之美。昔邵夷翼周、
 八 絳侯征漠、方之於今、未足踰也。公雖位極三槐、□□隆五等、寄意道教、棲心妙域。知貪虵
 九 如幻、不保全於夙霄、娛遊永夜、豈待期於昧旦。□□風防諸貴、鄉城耆老、訪地祇洹、式
 一〇 建靈塔。若洒汾水逕其陽、似熙連之遠往、姑山尊其北、等耆闍之鬱盛。皇帝陛下、
 一一 福洽人天、威加四海、貫萬國於宇宙、納蒼生於覆載。大冢宰・晉國公之勞王室、功牟
 一二 伊旦、光讚幽遐、敷揚妙軌。非銘金石、將何以則、不述景行、芳音莫著、觀茲休烈、敢爲之
 一三 頌。
 一四 曰若稽古、如是我聞。如如本絕、茫茫已分、有佛有法、爲皇爲君。聖德廣運、大智普資、其
 一五 温如日、其慧如雲。道心惟遠、禪念以懃、牢籠軒項、影響彌文。有法大士、爲王爪臣、言登
 一六 一子、功參十人。情超海岸、道濟河津、開沙置府、守國稱神。忠爲令德、善作福因、弘茲佛
 一七 日、會此堯辰。丹楹已構、黛壁斯陳、奉資聖帝、成我能仁。
 一八 大周保定元年歲次辛巳三月壬午朔十日辛卯敬造

〈第五層〉

33

一	宣威將軍給事中集曹龐義	宣威將軍虎賁給事參軍劉賓	前將軍左銀青光祿帥都督湮陽縣	楊仲孝	楊勝
二	宣威將軍給事中記室曹侯超	威烈將軍右員外侍郎參軍郭貴	開國男史珍珍和	令吳敬賢	邑子合河屯主
三	宣威將軍大中倉曹趙茂	珍寇將軍強弩司馬參軍靜鸞	帥都督史元穆	邑子梁伏泉屯	耿勝
四	前將軍大中倉曹李遠	珍寇將軍強弩司馬參軍蔣綜	帥都督橋景茂	主呂普	邑子薛壁屯主
五	冠軍將軍大中戶曹李遠	珍寇將軍強弩司馬參軍魏愬	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	楊仲和
六	冠軍將軍大中戶曹李遠	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
七	中堅將軍大中功曹賀蘭禮	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
八	冠軍將軍大中功曹賀蘭禮	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
九	曠野將軍殿中司馬樂曹普蓋	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一〇	宣威將軍給事中騎兵曹劉昕	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一一	宣威將軍給事中騎兵曹劉昕	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一二	寧遠將軍右員外常侍鎧曹任暉	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一三	鎮遠將軍給事中法曹仇建	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一四	鎮遠將軍給事中法曹仇建	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一五	鎮遠將軍給事中法曹仇建	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一六	寧遠將軍右員外常侍田曹傅寶	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一七	宣威將軍給事中士曹蘭猷	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一八	鎮遠將軍給事中士曹蘭猷	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
一九	鎮遠將軍給事中士曹蘭猷	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
二〇	寧遠將軍右員外常侍參軍萬紉于綱	珍寇將軍強弩司馬參軍魏緒	帥都督賈蜀	邑子杜梨屯主	
二一	邑子耿黑	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二二	邑子王莫問	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二三	邑子孟桃棒	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二四	邑子泉榮國	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二五	邑子王及先	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二六	邑子孫安勝	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二七	邑子丁吳買	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二八	邑子程文黨	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
二九	邑子王法歡	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三〇	邑子陸顯和	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三一	邑子李傳生	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三二	前將軍左銀青光祿	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三三	都督梁爽	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三四	龍門郡守王要洛	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三五	鄯州廣武縣令王法歡	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三六	邑子奈舍文	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮
三七	邑子奈舍文	平東將軍右金紫光祿都督孫孝義	都督曹口故	邑子李道榮	邑子李道榮

【碑側】

一	絳州三藏法師開	比丘辯和	比丘道延	沙弥法興	使持節車騎大將軍儀同三司樂昌城主大都督
二	汾勳二州三藏禪師賢	比丘僧定	比丘法嵩	沙弥法疆	使持節開國伯侯方超
三	建州三藏法師昶	比丘慧儻	比丘法湛	沙弥法超	甘若縣開國伯侯
四	義寧郡三藏法師元	比丘伏國	比丘法深	沙弥法昶	使持節車騎大將軍儀同三司大都督
五	聞喜縣三藏法師慧	比丘僧哲	比丘法儻	沙弥法略	龍門郡守鄧□二州刺史長樂縣開
六	聞喜縣三藏法師辨	比丘洪藏	沙弥志誕	沙弥法景	國侯姚欽芝
七	曲沃縣三藏法師暎	比丘惠儻	沙弥慧寶	沙弥法雅	使持節車騎大將軍儀同三司大都督
八	曲沃縣三藏法師巖	比丘攬猷	沙弥法亮	沙弥法剛	正平郡守安次縣開國伯張勝族
九	法師僧曠	比丘法遷	沙弥法長	沙弥法侃	前將軍左銀青光祿帥都督建州高
一〇	法師僧建	比丘靈覺	沙弥法澄		都郡守長安縣開國伯樊珍
一一	禪師曇勝	太平縣三藏法師遠	沙弥法進	沙弥法霍	輔國將軍中散帥都督夏陽縣
一二	禪師僧猥	□□縣三藏法師賢	沙弥法霍		開國伯□□□

【碑側】

一	都化主并州刺史胡大漢	中軍將軍右金紫光祿治都督大將	前將軍右銀青光祿都督晉
二	渠州八口縣令張歸洛	軍府參軍耿遵	州主簿李仲璨
三	邑主平東將軍右金紫光祿都督許敬	曠野將軍殿中司馬張樹延	都化主董秀息世昂
四	鎮遠將軍前大丞相府法曹高涼	楊烈將軍左員外常侍都督大將軍府參軍	婦女齋主襄陽縣開國子都督史成爲亡女
五	郡中正吳整	勳州主簿姜纂	婦女齋主郭高儻爲亡母
六	前督護龍門開禧二縣令郡功曹	都邑主申州刺史大都督宗縣開國子犁社	右相供養主上柱國鄴國公侍郎梁崇禮爲亡息佰隴
七	州主簿薛鸞	栖玄居士李漢	左相供養主郭奴仁爲亡父母
八	前州都郡中正薛興顯	副化主龍郡主簿汾陽縣中正史磨侯	東面開明主章仲和爲亡父母
九	宣威將軍虎賁給事玉壁大將	前將軍左銀青光祿都督汝願	南面開明主衛元洌爲亡父母
一〇	軍府禮曹楊順之		開明大齋主程金剛爲七世父母及一切衆生
一一	州主簿華山郡開國公薛道長	曠野將軍中外司馬都督□託	
一二	前將軍左銀青光祿□□高涼郡主簿吳暉	副邑主□法相	